

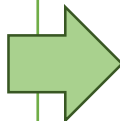
平成27年度 新産業戦略協議会 (ものづくり) の論点整理と今後の進め方

新産業戦略協議会 事務局

【検討課題】

- ◆ 世の中の動向を踏まえた「新たなものづくりシステム」のブラッシュアップ
 - ドイツの「インダストリー4.0」や米国の「先進製造パートナーシップ」、加えて第5期科学技術基本計画答申の「超スマート社会」の実現等の最新動向を踏まえ、システムの視点において新たなものづくりシステムに加えるべき内容の検討
- ◆ 「新たなものづくりシステム」実現の為に必要な施策
 - アクシンプラン対象施策の確認及び新たに取り組むべき課題の検討
 - 国として実施すべき取り組みの検討

新産業戦略協議会（ものづくり）の進め方

回数	予定時期	①総合戦略2015の課題及びH28AP対象施策の選定プロセスの検証	②H29年度予算で取り組むべき課題の検討	③H27, 28AP対象施策のフォローアップ及びブラッシュアップ
●協議会構成員から事前に意見等を徴収・取りまとめることで第1回の議論に反映				
第1回	1/22(金) 9:30～11:30	◆ 世の中の動向確認 ◆ 総合戦略2015の課題及び検討項目の議論	 ◆ 課題及び検討項目の議論から論点の絞り込み	
第2回	2/17(水) 9:30～11:30		◆ 「新たなものづくりシステム」実現の為に必要な施策について(プラットフォーム構築など)	◆ 検討項目関連の施策のフォローアップ、ブラッシュアップ(特に新規件、各省庁または事務局から報告など)
		◆ プレゼンテーション：西岡構成員、経済産業省		
第3回	3/7(月) 15:30～17:30		◆ 「新たなものづくりシステム」実現の為に必要な施策について(グローバル競争力強化など)	◆ 各省庁または事務局からの新規提案受け(あれば)
		◆ プレゼンテーション（論題：仮）生産現場での最新動向と国への期待について		
第4回	3/23(水) 15:00～17:00	◆ 総合戦略2016に向けた議論／まとめ		

第1回新産業戦略協議会での議論

第1回新産業戦略協議会では、構成員の皆様にご覧の下記2点について事前に検討して頂き、その結果をまとめた資料に基づいて、新しいものづくりシステムについて以下のコメントを頂きました。

- ・世の中の動向を踏まえた「新たなものづくりシステム」のブラッシュアップ
- ・「新たなものづくりシステム」実現の為に必要な取り組みについて

視点	コメント
システムについて	時代が変わるとシステムも変わるので生きているシステムを作る必要がある
実証について	実証しやすい大きさ（サイズ）がある
	トップ、現場ともにやる気のある企業が実証実験をする必要がある
実証方法	既存の仕組みの延長線上ではなく、新しい仕組みを試していく必要がある
	既存工場（稼働工場）と新規工場ではアプローチが異なる 新規工場の方がシステム化しやすい 既存工場でのシステム化では問題解決型の仕組みが必要である
	既存工場は小さな所からシステムでつないでいくことで具体化される
	利益/コストに基づいて「もの」の流れや「情報」の流れをコントロールする
	目的を明確にし、ターゲットを絞っていくことが必要である
	ノウハウやデータ公開のガイドラインを作れると良いかもしれない

第1回新産業戦略協議会での議論

視点	コメント
実証時の課題	実際にシステムを稼働させるときのモデルケースというのは難しい
	既存工場をどうシステムティックに変えていくかが難しい
	既存工場でのシステム導入は効率化が難しい
	独立系中小企業にはレガシーのシステムがあるため、システム変更対応が難しい
	日本の企業はノウハウやデータ公開に抵抗してしまう
	どういう実証の場であれば企業が参画する気になるか
	ノウハウやデータにはいくつかの種類があるのに仕分けができていない
	日本にはファブレス企業やファブ企業が少ないので、システム実証の議論が進んでいない

まとめ

企業が参画する「実証の場」の形成の必要性が確認された。
また、実証の際に、どのようなプラットフォームを目指すのかについて、異なるカバーエリアやサプライチェーンの範囲から多くの意見を頂き、更なる議論の必要性が確認された。

新しいものづくりシステムに関する論点整理と今後の進め方

◆第2回： 新たなものづくりシステム実現のために必要な施策（①）

＜主な論点＞ システム全体像、及び、システム実現に向けた課題や施策など

＜議論用資料＞ 「ものづくりシステム」や「システム内要素」に関する検討資料

各構成員が考える「ものづくりシステム」を図等で記載し、システムの中での仕事の流れ、構成する各要素の役割、さらに、その各要素における現行施策などの追記載

＜情報提供＞ 西岡構成員、経済産業省、文部科学省、総務省

◆第3回： 新たなものづくりシステム実現のために必要な施策（②）

＜主な論点＞ 第2回の議論の続き、及び、グローバル競争力強化について

＜情報提供＞ グローバルプレーヤーである企業2社程度から

生産現場での最新動向と国への期待について(予定)

◆第4回： 新たに取り組むべき事項についてのまとめ

＜主な論点＞ システム全体のまとめと補強、追加すべき施策などの提言

◆新たなものづくりシステム実現のために必要な施策

＜主な論点＞ システム全体像、及び、システム実現に向けた課題や施策など

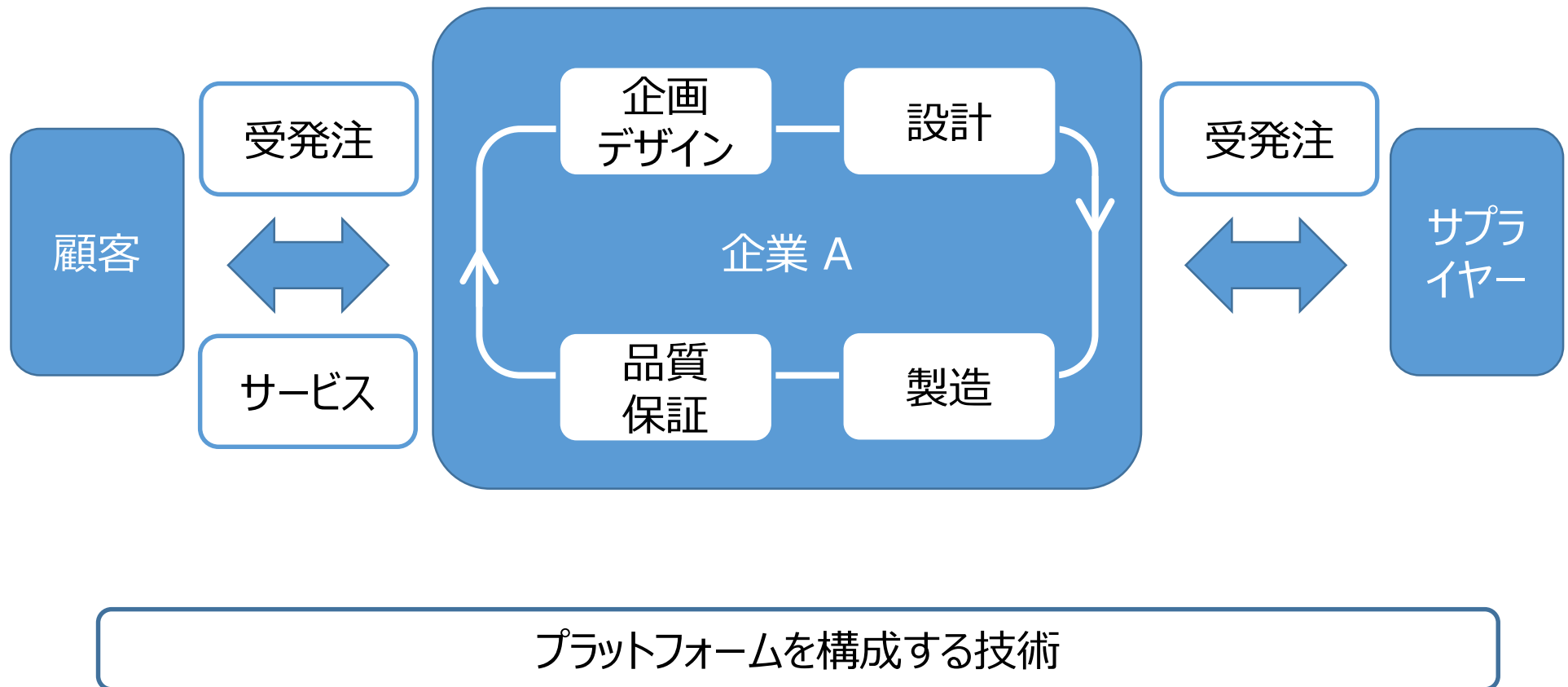
各構成員に作成して頂いた、ものづくりシステムのイメージ図を共有し、システム中での仕事の流れや構成する各要素の役割を精査することで、「新たなものづくりシステム」の全体像をブラッシュアップする。

さらに、「新たなものづくりシステム」実現のために必要な

各要素における現行施策の補完や新たな課題などについて議論する。

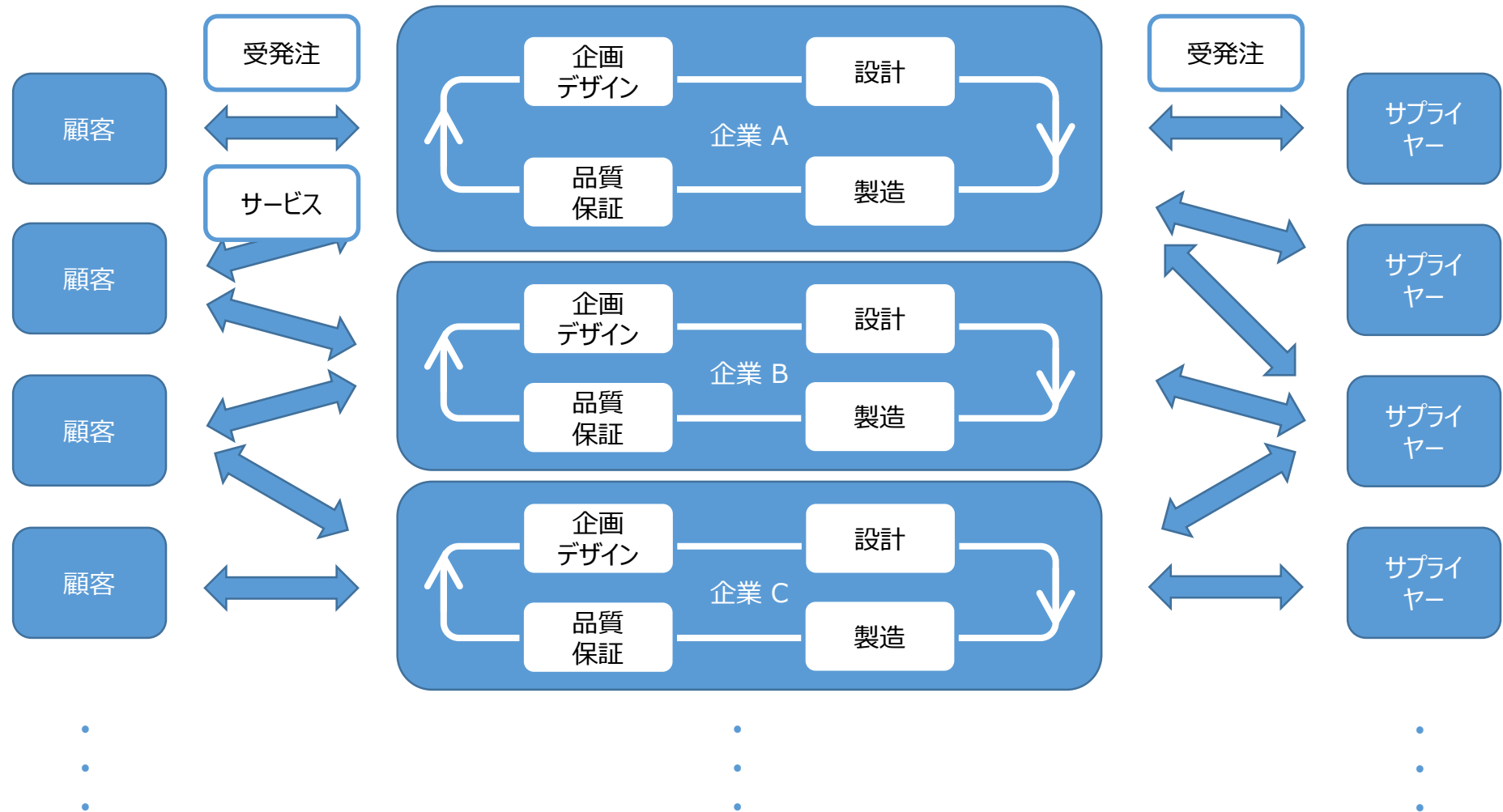
第2回新産業戦略協議会での論点

システムイメージ（一例）：既存の取引関係に閉じたシステム



第2回新産業戦略協議会での論点

システムイメージ（一例）：既存の取引関係を越えたシステム

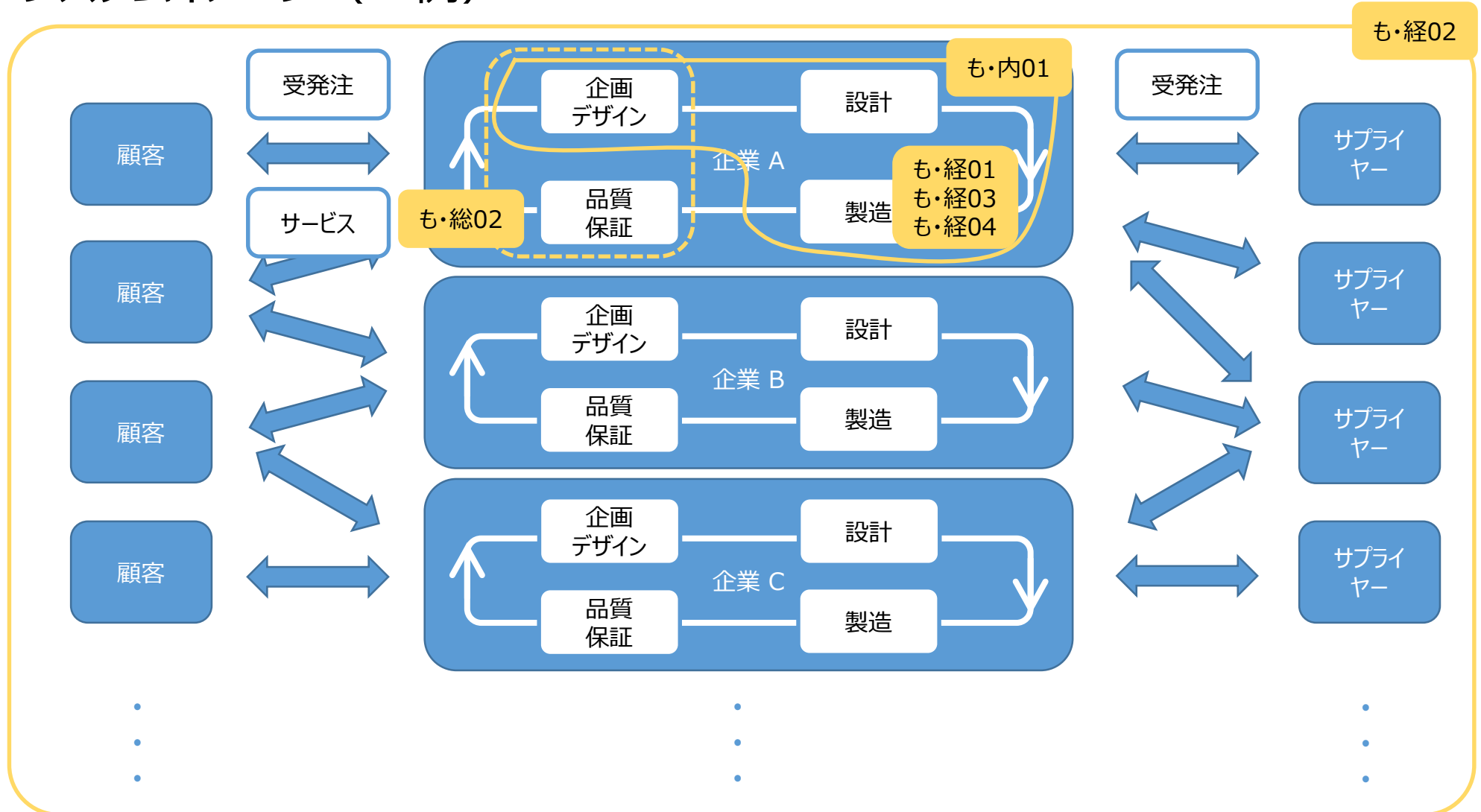


プラットフォームを構成する技術

第2回新産業戦略協議会での論点

*枠内文字は次ページの施策番号

システムイメージ（一例）



プラットフォームを構成する技術：も・総01, も・経05, も・文01

■ 新たなものづくりシステム

重点的取組	施策番号	施策名
(1) サプライチェーンシステムのプラットフォーム構築 (SIPを含む)	も・総01	多様なIoTサービスを創出する共通基盤技術の確立・実証
	も・経02	IoTを活用した製造業の新たなビジネスモデルの提案
	も・経05	CPSによるデータ駆動型社会の実現
	も・文01	AIP:人工知能/ビッグデータ/IoT/サイバーセキュリティ統合プロジェクト
	も・内科01	【SIP】「革新的設計生産技術」
	も・総02	脳情報による無意識での価値判断を活用した評価手法の研究開発
(2) 革新的な生産技術の開発 (SIPを含む)	も・内科01	【SIP】「革新的設計生産技術」
	も・経01	三次元積層造形技術開発・実証プロジェクト
	も・経04	高輝度・高効率次世代レーザー技術開発
	も・経03	ロボット活用型市場化適用技術開発プロジェクト